

他市の事例(1学級の望ましい人数・学級数)

参考

自治体	1学級の望ましい人数・学級数			理由
	3歳	4歳	5歳	
大分市 <small>(H30.7 大分市立幼稚園及び保育所の在り方の方針)</small>	15~30人			(人数) ・グループ活動が堅実に行える目安の人数として5人程度の小グループを3つ以上作り集団保育の教育的効果が高めること、効率的な園運営の観点などを勘案し、学級編制基準の下限を15人とする。
由布市 <small>(H27.3由布市幼児教育振興プログラム)</small>	—	20~25人 (複数学級)		(人数) ・幼児期の発達段階や集団性や個々に応じた指導、また幼稚園経営を勘案。10人を下回ることはないよう園児を確保する工夫や努力が必要。 (学級数) ・各学年が複数学級であることで子どもたちが学級ごとの良さを認め合い、競い合ったりすることにより人と関わる力を高めることができることや、序列の固定化を防ぐクラス替えの効果がある。 ・保護者自身の人間関係も広がりストレスや固定的な関係に縛られることが少なくなるなどから、同年齢に複数学級が望ましい。
鳴門市 <small>(R2.8 鳴門市公立幼稚園のあり方について)</small>	—	15~30人 (複数学級)		(人数) ・よりきめ細やかな指導を行う観点から、1学級30人を基準。 ・1学級あたりの最低人数については、幼稚園が教育環境としての「集団生活の場」であることを踏まえると、一定規模を確保することが望ましく、上限人数30人とした場合に、最低人数が15人となることとの整合性を図る意味からも、少なくとも15人以上は確保することが望ましい。 (学級数) ・園児たちが多様な他者の考えに触れたり、友だち関係の固定化を防ぐことができたりするという観点から、少なくとも学級編制替えが可能となる複数学級あることが望ましい。
檀原市 <small>(H31.4 就学前の保育・教育のあり方と適正配置についての基本方針)</small>	—	34人 (複数学級)		(学級数) ・クラスごとの良さを認め合い、競い合い、そしてクラス替えの効果などもあって、集団生活の中で園児同士が刺激し合う教育環境が確保できることから、各学年複数クラスを設けることが必要。 ・教育的効果を考えるとき、適正規模が満たされない幼稚園については、一定規模の園児数を満たすクラス編制ができるよう適正化を図ることが必要。
宝塚市 <small>(H29.6 宝塚市立幼稚園の統廃合計画)</small>	15~20人 (単学級)	20~30人	20~35人	(人数) ・平成23年8月に文部科学省が全国国公立私立幼稚園の約10%に当たる幼稚園の園長と教諭を対象に実施したアンケートにより、「学級の望ましい人数の学年別の平均値」及び、幼教審答申、プロジェクトのまとめから市規則も勘案し決定。 (学級数) ・学年複数学級にすることで、教員同士が指導方法について協議ができ、組織的な園務分掌も確保され、教員が互いに切磋琢磨することにより、質の高い幼児教育の提供が可能となる。ただし3歳児については、園が保有する保育室数との関係から、単学級運営を継続する。